

学校・家庭・地域の連携・協働研修会

本研修会は、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」を一体的に推進するために、組織的・効果的なコミュニティ・スクールについて関係者の理解促進を図ることを目的に開催しました。

当日は、管内のコミュニティ・スクールや地域学校協働活動に関わる44名が参加し、講話やグループ協議を通して学びを深めました。

本研修会は、目的を達成するために、①「ガイダンス」→②「講師の講話」→③「分科会に分かれてのグループ協議」という順で進めました。

<説明>「ガイダンス」

筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 後藤 大輝

はじめに、参加者の緊張感をほぐすために、ジャンケンアレンジしたアイスブレイクを行いました。その後、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の概要の説明や、一体的推進チェックシートを実施し、参加者が学校・地域の連携・協働について現状把握ができるようにしました。

<講話>「人づくりやつながりづくりを促す地域と学校の連携・協働

～ CSと地域学校協働活動の一体的推進を通して ～

大川市木室小学校 元校長 松延 聡 氏

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について、大川市の事例をもとにお話ししていただきました。大事なポイントとして、次のことを教えていただきました。

- 一体的推進に向けて、熟議を通した目標・ビジョンの共有が重要であり、学校、家庭、地域、行政等、立場が異なる人々の連携・協働が必要。
- 学校運営協議会は、議題によって協議形式を工夫することで子どもや地域の思いを引き出すことができ、学校での教育活動や地域学校協働活動の充実・活性化につながる。
- 地域学校協働活動によって地域住民のつながりが生まれるとともに、参画意識や生きがいにもつながる。

最後に、学校・地域の連携によるシビックプライド（当事者意識）の醸成が、学校づくりやまちづくりにつながることを教えていただきました。



<グループ協議>

分科会1「地域とともにある学校づくりに向けて」（学校教職員、学校教育課職員等）

分科会2「地域学校協働活動の充実にに向けて」（推進員、サポーター、社会教育課職員等）

分科会に分かれ、自分の立場で今後取り組みたいことについてワールド・カフェ方式で協議を行いました。その後、1つの会場に集まり、分科会の内容を交流しながらグループ協議を行いました。異なる地域や立場の人との交流によって、多様な実践を知ることができただけでなく、学校と地域でコミュニケーションを深めていくことの重要性を再確認し、今後の取組や学校運営協議会の実施方法を見直すことにもつながりました。



参加者は本研修会を通じて、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進の意義やポイント、学校づくりが地域づくりにつながるということについて学びを深めることができました。また、地域や学校の実情を認識し、今後の取組について気づきを得ることができました。

【参加者アンケートから】（抜粋）

- 他の地域の実態等を聞き、まだまだ自らの町内でできることがあることを実感できた。
- 学校と地域で、もっとしっかりと熟議が必要であることを理解した。
- コミュニティスクールの可能性は大きく、実は切り口もたくさんあることがわかりました。
- 学校全体で研修を行い、職員みんなの意見を取り入れながら進めたいと感じました。